



2025 年 12 月 15 日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催 アート・アーカイヴ資料展 XXVIII : 「幽暗 Shadow World-朦朧と立 ち上がる土方巽の振付世界」 展開催(2026.1.19 – 2026.3.14)

舞踏家・土方巽の没後 40 年を記念して、土方巽の特異なメソッド「舞踏譜」をテーマに、未公開資料や映像を交えた展示を開催します。弟子たちのノートや公演記録映像を通じて、未来への舞踏の継承についても考え、また展示とともに公演や上映会などの様々な関連企画を実施することで、「動きのアーカイヴ」概念を国内外で広める場とします。

1. 基本情報

会 期： 2026 年 1 月 19 日（月）～ 2026 年 3 月 14 日（土）
土日祝休館 ただし 1 月 31 日（土）、3 月 14 日（土）は開館
2 月 2 日（月）、3 月 9 日（月）は休館

開館時間： 11 : 00 ～ 18 : 00

会 場： 慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館 1 階アート・スペース）

入 場： 無料

主 催： 慶應義塾大学アート・センター

企 画： 慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴ、ポートフォリオ BUTOH

協 力： 土方巽アスベスト館、NPO 法人舞踏創造資源

助 成： 公益財団法人花王芸術・科学財団

*本事業は 2025 年度科学研究費基盤研究 (c)「動きのアーカイヴ」における実証的研究——アーカイヴの創造的利用における国際連携 (25K03758) の助成を受けています。

最新情報は展覧会ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive28/>

2. 展覧会概要

土方巽の舞踏は 30 年にも満たないものの、それでも 1959 年の〈禁色〉以来の土方巽の舞踏を一望することはむずかしい。とはいえ、土方巽が 1970 年を境に自らの舞踏を決定的に変えようとしたことは確かです。1960 年代に「舞踏の運動」は遂行されましたが、土方巽はともに「運動」を担った舞踏家と決別して、新たな舞踏の創造に向かったのです。

土方巽自身も 1973 年に舞踏の舞台から降りたことは驚きでしたが、ここから「Butoh Score」として舞踏メソッドの構築に向かいました。本展では「幽霊」というイメージに結びついた特定の動きに注目し、海外の新たな視点と新たな映像の手法を得て、舞踏譜をベースにした土方巽の舞踏メソッドを提示し問いかけます。現在から 50 年前にあたる 1976 年から、土方巽による創作活動の流れを俯瞰しつつ、中でも 1977 年《小林嵯峨舞踏公演》〈にがい光〉と 1978 年《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉の二作品を紹介します。

3. 作家プロフィール

土方巽（1928-1986）

暗黒舞踏の創始者、土方巽は秋田県に生まれた。1959年〈禁色〉を発表後、1968年〈土方巽と日本人―肉体の叛乱〉を演出・振付・出演。暴力性とエロチシズムとユーモアにあふれ、聖性にまで昇華された舞台となる。1972年《燔犧大踏鑑第二次暗黒舞踏派結束記念公演・四季のための二十七晩》を作・演出・振付・出演。細江英公による写真集『鎌鼬』以来の東北回帰を集大成するテーマと内容で「東北歌舞伎」と称した。観客も8500人以上を動員し、舞踏史上記念碑的な公演となる。三島由紀夫や澁澤龍彦から高く評価されたほか、写真家・細江英公やウィリアム・クラインらの被写体となり、また俳優として寺山修司演出の舞台に立つなど様々な分野の第一線で活動する作家たちの作品に参加したほか、国際的な知名度も高い舞踏家である。

4. 広報画像と展示予定作品

- a.映像上映 《小林嵯峨舞踏公演》〈にがい光〉1977年、《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉1978年より部分、デジタルデータ、Video Information Center^{*1}
- b.《小林嵯峨舞踏公演》〈にがい光〉ポスター 紙、インク、1977年、慶應義塾大学アート・センター／NPO法人舞踏創造資源
- c.《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉ポスター、紙、インク、1978年 慶應義塾大学アート・センター／NPO法人舞踏創造資源
- d.土方巽直筆「舞踏譜スクリプトシート」、紙、鉛筆、年代不明 慶應義塾大学アート・センター／NPO法人舞踏創造資源

^{*1} VIC（Video Information Center | 1972-現在）は、70年代から80年代にかけビデオを用いて、多種多様なイベントの記録および実験的なテレビ放送（アパートでのCATV放送の試み「Paravision Ten」1978年）等を行った運動体です。

※実際の展示作品とは異なる場合がございます。ご了承ください。

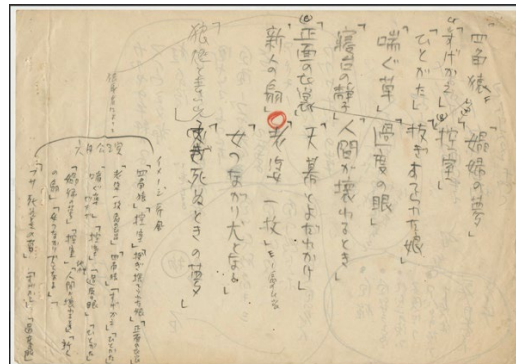
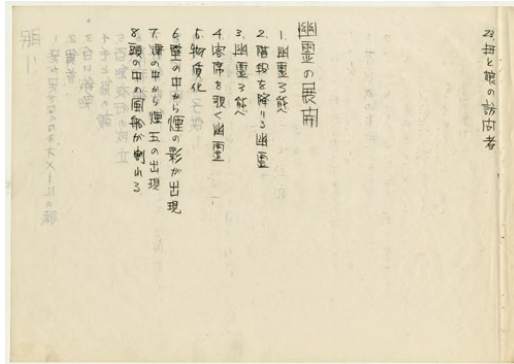
※画像を利用する際には、クレジットをお付けください。



b.



c.



d.

5. 関連イベント

■ 没後 40 年 土方巽を語ること XV

日時：2026 年 1 月 21 日（水）18:00 開始

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F G-Lab

ゲストスピーカー：小林嵯峨 参加無料・入退場自由

当日中継配信あり（Zoom Webinar）

※詳細は展覧会ウェブサイトで順次公開いたします。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/htanniv-40-1/>

■ 特別上映会「70 年代後半における土方巽の振付Ⅱ」

【第 1 回】《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉上映

日時：2026 年 3 月 12 日（木）18:00～20:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F G-Lab

18:00～20:00 《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉上映
（1978 年、1 時間 45 分）

出演：仁村桃子、山本萌

【第 2 回】《小林嵯峨舞踏公演》〈にがい光〉上映および「Butoh Scores 研究発表」

日時：2026 年 3 月 14 日（土）16:30～19:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F G-Lab

16:30～18:10 《小林嵯峨舞踏公演》〈にがい光〉上映（1977 年、1 時間 40 分）

出演：小林嵯峨、和栗由紀夫ほか

18:15～19:00 「Butoh Scores 研究発表」

ローザ・ヴァン・ヘンスパーゲン（アート・センター所員、イエール大学准教授）

※上映会のオンライン配信はありません。

※予定は予告なく変更されることがあります。

※詳細は展覧会ウェブサイトで順次公開いたします。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive28/>

6. 会場案内

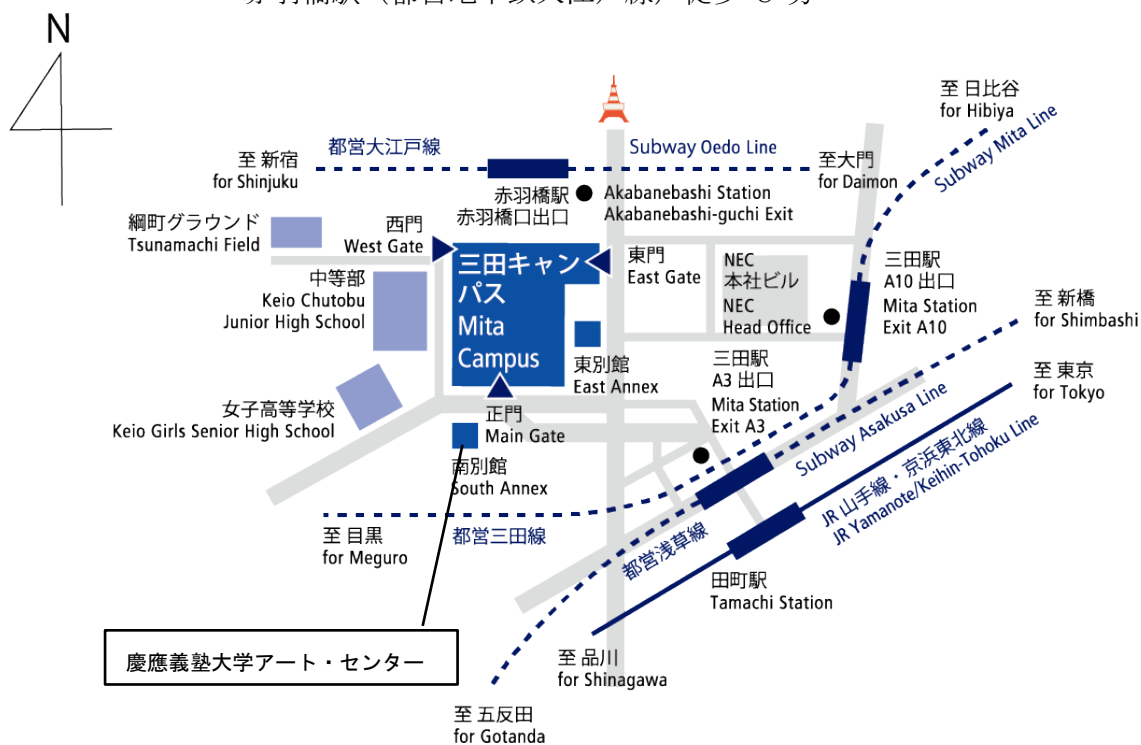
会 場：慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館 1 階アート・スペース）

住 所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス：田 町 駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分

三 田 駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（向坂）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

E-mail：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>